

第 10 回北広島市市民協働推進会議 会議概要

日 時	平成 22 年 12 月 6 日（月）午後 4：00～5：10	
場 所	市役所第 2 庁舎 2 階会議室	
出席者	委員 (5 名)	朝賀委員、奥委員、鎌崎委員、佐藤委員、中林委員
	事 務 局	川原市民環境部長、市民生活課広吉課長、佐々木主査
	傍 聴 者	なし
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 公益活動事業補助金・協働事業提案プレゼン審査を振り返って</p> <p>(2) 市民協働推進会議（第 1 期）の評価について</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 1 公益活動事業補助金決定内容 ・ 資料 2 協働事業提案事業決定内容 ・ 資料 3 第 1 期市民協働推進会議開催経過 	

■会議録

1. 開 会

会 長： 第10回市民協働推進会議を開催いたします。

市民協働推進会議設置条例に基づき、平成20年12月8日にこの推進会議が設置され2年が経過しました。本日で10回目を迎え1期目の最終回となります。その間にプレゼンテーションなど色々となりましたが、初回の委員でしたので不慣れな論議であったのではないかと思います。そういう中で市の事務局の方にも支援していただきながら補助事業や協働事業提案制度の要綱・要領等の協議を行い市長に答申という経過を経て、本日を迎えることができました。

本日は、前半で今年度から始まった公益活動事業補助金と協働事業提案のプレゼン審査について、事務局から報告をいただきながら皆さんで振り返り、後半で推進会議の1期目全体を振り返って各委員から評価を頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

2. 協議事項

◇公益活動事業補助金・協働事業提案プレゼン審査を振り返って

事務局： 《資料1,2により各事業審査・決定状況を説明》

会 長： 只今の説明にご意見等ございますか。

A 委員： 補助金交付決定された「子育て支援ワーカーズほっとまむ」は、元気フェスティバルでブースを設けてPRしたり、インターネットにホームページを開設したりと一生懸命活動を展開している様です。

事務局： 市民に活動を知ってもらうということは大切なことですね。

A 委員： 代表の方がおっしゃっていたのは、来ていただける親子はまだ良くて、来てもらえない人達をどうしたらよいかという問題提起をしていました。私個人もそのことは感じているところです。

副会長： 「NPO 法人北広島 IT ネットワーク」は、補助金交付決定事業とともに関連で協働提案事業も採用されましたが、この事業は、北広島を外部にPRする効果や市民の愛着心を高めるなどの効果が期待できると思います。市の方としてはITネットワークにお任せ見たいな形で推進していくというスタンスでいるのか、役割分担を明確にした協働というスタンスなのか、担当課とはどのような協議が進んでいるのですか。

事務局： ITネットワークは、今年度に補助金交付事業である市民ディレクター養成に重きを置いているようです。協働事業の担当課である情報推進課は、時間はかかってもいいからまず人材育成に力を入れて下さいというスタンスでいるようです。市が具体的にどの部分の役割を担うかについての協議までにはまだ至っていないと聞いています。

副会長： 協働事業のプレゼンの際には、商業労働課の担当者も来ていましたが、シティセールスという市の観光事業の位置付けにも絡んできそうな事業だと思いますが、もう少し市の方が計画を立てて積極的に推進していかなければいけないようにも思います。長期総合計画でも力を入れていくという表現に成っていたはずですが。

事務局： プレゼンのときは提案団体の希望する関係課ということで、商業労働課にも同席してもらいましたが、成案化事業の採用が決まった後に改めて、IT ネットワークと情報推進課、商業労働課と調整役として私どもの課が、正式な担当課を決定するために協議の場を設けました。

その場において、商業労働課からシティセールス施策に係る市の方向性については、今年度中に電通北海道に業務委託をして年度末に報告書の提出を受け、その結果やアンケート調査をもとに北広島市の PR 手法を決定するスケジュールとなっているという説明がありました。そのため、市のシティセールス手法が不透明な現状で、IT ネットワークの希望する担当課の役割を担うことは出来ないが、この協働事業を否定するものではなくインターネット TV が本格稼働する段階で、番組に関する情報を提供するという関わりにして欲しいということになり、提案事業は市ホームページ等を補完することとしていることから情報推進課を担当課に決定ということで双方合意したところです。

会 長： 副会長がおっしゃりたいことは、今後協働事業の協定書を締結していく将来的な問題として、市は情報対策というものをもっと積極的に考えていくべきという意見だと思います。

副会長： 他の補助金交付決定事業である「北広島九条の会」「平和 575 実行委員会」とも一生懸命活動を展開している様です。両方とも反戦をテーマにしていますが、どちらかと言うと左翼系統の人達だけの活動に成りがちですが、北広島市の場合は、非常に広範囲の方が投稿されていて、「平和 575 俳句・川柳展示会」「バトンタッチ（戦争体験集）」は、市民全体としての成果物として出来上がっていて良かったと思います。補助金交付の成果が出ていると評価できます。

会 長： 否採択となった「北広島郊外塾」の事業がどうなったのか気になっているのですが。

事務局： 手元に資料がございませんので、確認できたら後半で報告いたします。

C 委員： 全体としてももう少し申請件数を期待していたので少し残念ですが、採択した個々の事業については順調に進捗しているようですので、審査した側としては良かったなという思いです。初めての試みとしては上手くいったのではないですか。

B 委員： 今年度は事業募集したのが、4月の広報でその後すぐにプレゼンテーションでしたから致し方ないでしょう。来年はもっと申請があると思います。NPOも増えていますし、私の周りで活動をしている方々からも「補助金が出るようになったんだってね。」という話が聞こえてきています。

事務局： まちづくり活動を始めた任意団体も徐々に増えてきています。活動を始めるときには、

何らかの支援ということに成りますので、どんどんこの制度を使って欲しいところです。

制度が出来たばかりで、まだ十分に浸透していないということもありますが、積極的なPRを心がけなければいけないと思っています。

プレゼンテーションの上手い下手ということはどうしても出てきますが、問題は事業の内容の判断に成りますから、今年度採択したものと不採択したものが基準に成って、翌年度以降に繋がっていくことになると思います。来年に成ってそれがガラッと変わると困りますので、そういう意味では皆さんの意見がこれから踏襲されていくことが理想だと思います。

会 長： それでは2番目の協議事項に入ります。

◇第1期市民協働推進会議の評価について

会 長： 今までの2年間を振り返って各委員から一言頂きたいと思います。

副会長： 幾つかありますが、結構まともな話し合いと結論を出すことが出来たという実感です。そういう面では推進会議そのものが良く機能したのかなと自画自賛しています。今再度考え直しても結論は同じだと思いますので。

もう1つはC委員がおっしゃった様に、今回の補助金等の申請が市の予算に対して決定額がかなり下回っているということに関しては、この会議は協働を推進する会議名称に成っていますので、是非来年度以降はこの予算をオーバーするくらいの申請があつて、私達が優先順位をつける際に悩むくらいの状況になってくれればと思います。今年度は、審査点数がバラけたことはありましたが、それ程悩むことなく、大きな意見の対立もなく採択か不採択の意思統一がされていました。申請件数が増えてくると微妙なところが増えてきて、難しい判断が必要となってくるとと思いますが、そういう状況にしていけないといけないのだとも思います。

審査基準作成の議論では、市から提案された案に対してこの会議が北広島らしい審査項目を提案してそれを実現できたこと、初動支援コースの申請をこの会議の意見で自主事業支援コースに格上げしたことなど、形式的な会議ではなく実働的な会議として機能出来たことは大変評価できることだと捉えています。市の方も形だけではなくこの会議の意向を尊重してくれて良かったです。

別件ですが、教育委員会の同様な補助金があつて二重行政に成っているようですので、市に対するお願いとして、そろそろ一本化して、団体側が戸惑うことのないようにしてすっきりとした補助金の制度にしていきたいです。

A委員： 私も市の同種の補助金一本化について副会長と同様に考えています。また、制度の周知につきましては、このような事業があるというPRが大事だと思います。市民の皆さんが知っているという前提がないと、折角私達が審査をしても、形ばかりのことをやっているような気になるので、様々な機会を利用して折に触れどんな小さなことでも構わないのですという様なPRが必要だと思います。NPOなどの形式が整っている団体は、まず名乗り出るかもしれませんが、一般の市民が何人か集まっただけのものでも申請できるのですという柔らかいものが感じられるお知らせの仕方が必要だと思います。

それから上手く表現できないのですが、このような推進会議やNPOなどの団体もそう

ですが、協働事業というのは出来上がったから安心ではなく、常にこれで良いのかという問題意識を持ちながら事業を進めていかなければいけないと思っています。

事務局：制度そのものの見直しも含めてということですね。

A 委員：はい。

副会長：現状に満足しないで常に改善点を考えながらやっていくということです。

事務局：ここで、先程会長からお問い合わせがあった「北広島自然塾」の全国大会について、概略的なものですが報告します。

講演会に道内 180 名、道外が 80 名程度の参加者があり、その方々がクラッセホテルにお泊りになって交流会や市内見学会を実施したということです。また、市有林で植樹祭を実施して自然の中で環境に関する勉強会などを実施したということです。担当者からは実施した結果、非常に良い機会を提供できたというお話でした。

C 委員：私も窓口を一本化した方が良いと思います。市民にとっては 1 箇所に行けば全部用が足りた方が良く、無駄を省くという意味で市民も協働参画しやすくなるのです。

事務局：この協働に関する制度だけでなくということですか。

C 委員：はい。市民としてはあそこに行けば全部様が足りるという体制にして欲しいということです。

事務局：ワンストップサービスという形式ですね。現状の分散された庁舎では非常に難しいことなのですが、職員同士が情報を共有して、特にお年寄りや障害者など手助けが必要な方には職員が出向いてきてサービスをするよう心がけています。新しい庁舎が出来れば一番良いのですが、それまでの間は出来るだけ市民に負担をかけないような方法で窓口の一本化に努めなければいけないと考えています。そこで現在は、本庁舎の入り口に委託により案内担当者を配置しています。大まかな案件はそこにおいて対応可能ですが、深い話になりますと専門の部署に行き行って手続をしてもらうという対応を今のところしています。

副会長：所謂、たらい回しみたいなことについて私個人としては、殆ど経験がなくて非常に親切に、関係ある部署まで一緒に誘導してもらうなど、親切な職員が多いと感じています。窓口がはっきりしないとか、行っても突き放されてしまうとかという市民の声が多いのでしょうか。

事務局：100 人いれば 95 人は、副会長がおっしゃられた対応をしている職員なのですが、残りの 5 人の職員に対応された市民の方が、ダメな対応だという声を市民の声としてメールしてくるという状況なのです。このような時代ですから心を病んでいる職員が一部いることも事実ですが、だから良いというのではなく 100 人いれば 100 人ともきちんと対応できる様に指導しているのですが、一部の職員の対応で不快に感じた市民が、

北広島市の職員はダメだと声をあげられるのは非常に残念なことです。

会 長： 少し話がずれてきましたので、これからの推進会議のあり方に絞ってご意見を頂きたいと思います。

B 委員： 協働に関する補助金が教育委員会と受付の窓口が重なっている状態なので、2、3年のうちに一本化した方が良いと思います。また、今後申請件数が増えて補助金の取り合いになった場合は、部分補助的なことも考えておいた方が良いとも思います。

審査の基準等については、特に調整したわけでもないのに大きく違ったことはなく、委員の皆さんで作成したチェックシートの効果があったと思います。

会 長： 補助金の限度額についてはどうでしょうか。

B 委員： 初動支援、自主事業支援ともこのくらいで良いと思います。協働提案制度については限度額は関係ありませんが、これから出てくるものとして大きなものも出てくる気がしていますので、市民も力を出すけれども市も力を出して市の価値を高めようという動きが出てくれば、この制度が発展していくと思います。

会 長： 教育委員会との窓口一本化というご意見、応募数を増加させるような方策などの意見がございました。今後の問題として、補助事業、提案事業の実績をもっと市民に知らせる様なシンポジウムなどの方策を通じて、NPO等の活動団体が実感として感ずるような場を作っていくべきではないかと感じています。そのような方策をこの推進会議で練っていくことが、次の段階に向けて必要なことではないかと思っています。

審査基準については、皆さんと色んな論議を経て作成したわけですが、審査した結果を見ると皆さんの採点より私の点数が低かったのは、私だけが厳しすぎたように反省する部分があります。

C 委員： この推進会議の初回の頃に他市町村の協働に関する制度等の状況をお聞かせいただきましたが、2年経過して状況はどうなっていますか。

事務局： 管内市町村の状況になりますが、千歳市は協働関連施策に随分前から力を入れていて補助金制度にも取り組んでいます。石狩市は平成20年度から協働事業提案制度を始めています。

会 長： 時間が無くなりましたのでこの辺で本日の会議を終了いたします。
2年間に渡って各委員がいつもフルメンバーで進めてこられたことに敬意を表したいと思います。皆様大変ご苦勞様でした。